

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

玉垣周辺

8月15日は終戦記念日ですが、本市は戦前、軍都として発足したまちであることをご存じでしょうか。

発足から3年足らずで終戦を迎えた本市では、市内の膨大な軍関係施設の跡地などに大きな工場が立地するなどして、発展しました。

左上の写真は、当時の鈴鹿海軍航空基地の様子で、現在その周辺は鈴鹿医療科学大学や桜の森公園などへ姿を変えています。

桜の森公園のサブエントランスには、当時の軍施設の一部が移築されており、軍都の面影を垣間見ることができます。

昔(昭和16年)



現在



昔(昭和27年)



出典：米極東空軍撮影の空中写真(昭和27年撮影)

現在



出典：三重県における空中写真(市町共同)撮影成果(令和2年度)

ひとまち・モータースポーツ

モータースポーツお宝探検隊 vol.15

香川県出身の片岡 蒼さん(60歳 桜島町)はバイク一色の青春時代を過ごし、メカニックの技術を修得しました。そんな片岡さんが、レース活動やオリジナルパーツの開発で有名な鈴鹿の「オーヴァーレーシング」の門を叩いたのが1986年。鈴鹿8耐を頂点とするバイクレースブーム最高潮の時代でした。

21歳のころからイタリアンバイク「ドゥカティ」に魅せられた片岡さん。ライダーを熱くさせる走りがその魅力。▲今年の8耐マシンと片岡さん力でしたが、一方で気難しさも。その性能を最大限発揮させるため、2輪誌に掲載された専門家によるドゥカティの整備ノウハウを必死に研究しました。

その「ドゥカティ愛」はオーヴァーレーシングの佐藤健正社長をも動かし、1990年にはついに専門店「ディライト」を設立。



▲当時貴重だったドゥカティの整備ノウハウ

現在では全国的な知名度を誇っています。

この夏、片岡さん率いる「チーム・ディライト」は3度目の鈴鹿8耐に挑戦します。輝くイタリアンレッドのマシンには、片岡さんの情熱が宿っているようです。

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード

私は高校を卒業する直前にスマートフォンを買ってもらい、SNSを利用し始めました。SNSでは、顔も知らない人とWeb上でつながることができます。大学入学前から学部やサークルの会ったことのない人たちと情報のやりとりができるようになることが、当時は新鮮に感じる反面、怖くもありました。

今回の特集で、中学校の学校運営協議会を取材し、スマートフォンの使用について保護者と生徒両方の意見を聞いたところ、親は不安に思う一方、子どもにとっては友達とつながる大事な手段であるとのこと。両者の気持ちに納得しながら、自分なら安全に使えただろうかと考えさせられました。

今の時代、スマートフォンを持つことが当たり前になりつつあります。子どもたちが安全に正しく使えるように、学校・保護者・地域が一丸となり、見守り教えていくことが大切だと思いました。(晴)